

## 講義要綱

【授業科目名】	生物学	【分野】	基礎	【学年】	1年	【学期】	前期
【学科】	専科	【講師名】	竹村朝子	【授業コマ数】	15	【授業時間数】	30
						【単位数】	2
【一般目標:GIO】 鍼灸師の資格を習得する上で必要な専門科目を履修するために、その基礎となる科学的、生物学的知識を習得する。その他、一般生活における科学的教養を高めることを二儀の目標とする。							
【行動目標・到達目標:SBO】 生物の仕組みを理解し、疾病に関わる専門科目の理解を深めることができる。							
【 授 業 計 画 】							
<前期>				<後期>			
1: 科学基礎 2: 生物学基礎 3: イントロダクション「生物学とは」 4: 「生命を支える分子」 5: 「細胞」「単細胞生物と多細胞生物」「組織と器官」 6: 「細胞のはたらきについて」 7: 「エネルギーと代謝」 8: 「細胞の一生」「細胞の種類」「細胞分裂」 9: 「配偶子形成」「生殖の種類」 10: 「受精」「カエルの発生」 11: 「ヒトの初期発生」 12: 「古典的遺伝学」 13: 「分子遺伝学」 14: 「遺伝学の応用」 15: 試験問題の解説および総復習							
【テキスト】 改訂版「視覚でとらえる フォトサイエンス 生物図録」 監修 鈴木孝仁 数研出版							
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の筆記試験において評価を行う。							
【授業実施上の留意点】 特になし。							

## 講義要綱

【授業科目名】	組織学	【分野】	基礎	【学年】	1年	【学期】	後期
【学科】	専科	【講師名】	竹村朝子	【授業コマ数】	15	【授業時間数】	30
				【単位数】	2		
【一般目標:GIO】 鍼灸師の資格を習得する上で必要な組織学の基礎的知識を習得し、さらに、専門科目を履修するための発展的学習を行う。							
【行動目標・到達目標:SBO】 組織の仕組みを理解し、疾病に関わる専門科目の理解を深めることができる。							
【 授 業 計 画 】							
<前期>				<後期>			
				1:「組織学基礎」 2:「細胞と細胞小器官」 3:「血球」 4:「結合組織1」 5:「結合組織2」 6:「上皮1」 7:「上皮2」 8:「筋」 9:「神経組織1」 10:「神経組織2」 11:「神経系1」 12:「神経系2」 13:「骨組織」「軟骨組織」 14:「各器官系の特徴について」 15:「試験問題の解説および総復習」			
【テキスト】 改訂版「視覚でとらえる フォトサイエンス 生物図録」 監修 鈴木孝仁 数研出版							
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の筆記試験において評価を行う。							
【授業実施上の留意点】 特になし。							

## 講義要綱

【授業科目名】	医療コミュニケーション	【分野】	基礎	【学年】	1年	【学期】	前期
【学科】	専科	【講師名】	松野俊夫	【授業コマ数】	15	【授業時間数】	30
						【単位数】	2
【一般目標:GIO】							
臨床活動に必要とされる患者理解のための心理学及びコミュニケーションスキルについて学習する。患者になることによる心理的变化の理解、患者との信頼関係の形成、傾聴の態度などについて理解し説明できることを目標とする。							
【行動目標・到達目標:SBO】							
①人間関係の中のやり取りについて説明出来る。②ラポールについて説明出来る。③傾聴について説明出来る。④受容と共感について説明出来る。⑤医療面接について説明出来る。⑥病者とのコミュニケーションについて説明出来る。							
【 授 業 計 画 】							
<前期>				<後期>			
1: 人間関係の基礎(人間の認知特性) コミュニケーションの基礎 2: 人間関係の分析①(交流分析法:ストローク欲求と行動) コミュニケーションの基礎 3: 人間関係の分析②(交流分析法:自我の構造とやり取り) 人間関係とコミュニケーション 4: (単方向のコミュニケーションと両方向のコミュニケーション) 5: 医療面接の技法①医療面接の実際 6: 医療面接の技法②様々な質問法 7: 医療面接の技法③治療者の態度 8: 医療におけるコミュニケーション①患者を取り巻く環境 9: 医療におけるコミュニケーション②信頼関係の構築(1) 10: 医療におけるコミュニケーション③信頼関係の構築(2) 11: 医療におけるコミュニケーション④ラポールの構築(1) 12: 医療におけるコミュニケーション⑤ラポールの構築(2) 13: 医療におけるコミュニケーション ⑥指示的なコミュニケーション 14: 医療におけるコミュニケーション ⑦受容的なコミュニケーション 15: 試験の解説と総復習							
【テキスト】							
プリント配布							
【成績評価方法】							
所定の出席時間を満たしたものに対し、学期末の筆記試験において評価する。							
【授業実施上の留意点】							
座学だけでなく実習なども取り入れ「体験して考える」講義とする。							

## 講義要綱

【授業科目名】	栄養学	【分野】	基礎	【学年】	1年	【学期】	後期
【学科】	専科	【講師名】	鈴木ルミ子	【授業コマ数】	15	【授業時間数】	30
						【単位数】	2
【一般目標:GIO】 治療効果を高め、また患者の生活指導に役立つ栄養学について学ぶ。							
【行動目標・到達目標:SBO】 栄養学の知識を持ち患者の生活指導に役立てるようになる。							
【 授 業 計 画 】							
<前期>				<後期>			
				1: 栄養学基礎 2: 五大栄養学と各食品の特徴① 3: 五大栄養学と各食品の特徴② 4: 五大栄養学と各食品の特徴③ 5: 五大栄養学と各食品の特徴④ 6: 食生活の設計・食事摂取基準と食品摂取の目安・栄養価計算 7: 食生活の設計・食事摂取基準と食品摂取の目安・栄養価計算 8: 食生活の設計・食事摂取基準と食品摂取の目安・栄養価計算 9: 食生活の設計・食事摂取基準と食品摂取の目安・栄養価計算 10: 成長段階や各種目標に応じた食事内容(各疾患、スポーツ選手、妊娠など) 11: 成長段階や各種目標に応じた食事内容(各疾患、スポーツ選手、妊娠など) 12: 成長段階や各種目標に応じた食事内容(各疾患、スポーツ選手、妊娠など) 13: 成長段階や各種目標に応じた食事内容(各疾患、スポーツ選手、妊娠など) 14: 栄養学まとめ 15: 試験問題解説			
【テキスト】 教科書:改訂新版「いちばん詳しく、わかりやすい!栄養の教科書」新星出版社 中嶋洋子著 参考書:東洋療法学校協会編「衛生学・公衆衛生学」「生理学」「臨床医学各論」							
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の筆記試験において評価を行う。							
【授業実施上の留意点】 特になし							

## 講義要綱

【授業科目名】	英語	【分野】	基礎	【学年】	1年	【学期】	前期
【学科】	専科	【講師名】	山川より子	【授業コマ数】	15	【授業時間数】	30
						【単位数】	2
<p>グローバルな時代を迎え、医療の現場でも外国人の方々と接する機会が増えてきている。また、最新の医学論文は英文で記されていることが多い。コミュニケーションの手段と医学知識の吸収のためにも、医療の現場で用いられる、英語の専門用語や表現を十分に理解し修得する。</p>							
<p>【行動目標・到達目標:SBO】 医療現場の英語に習熟し、またそれを臨床の場面等で使うことができる。</p>							
【 授 業 計 画 】							
<前期>				<後期>			
<p>1: 講義概要の説明／自己紹介 (speaking &amp; writing)/ ①Parts of the Body(1)</p> <p>2: ①Parts of the Body(2)/ ①の補足 (人体各部の形容詞形・連結形)</p> <p>3: ②Basic English Conversation in the <i>Shinkyuin</i>, <i>Sekkotsuin</i>, Clinic etc. 1.Making an appointment 2.At the entrance</p> <p>4: ②3.At the reception desk</p> <p>5: ②4.Preliminary examination(1)</p> <p>6: ②4.Preliminary examination(2) ②5.In the consultation room(1)</p> <p>7: ②5.In the consultation room(2)</p> <p>8: ②6.At the cashier/ ③Useful Expressions 1.Pain:Ache;Sore</p> <p>9: ③2.Instructions</p> <p>10: ③3.Diagnosis/③4.The cause of the ache or pain/ ③5.Symptoms</p> <p>11: ③6.Checks &amp; treatment/ ③7.After checks &amp; treatment</p> <p>12: ④⑤Useful Expressions for Acupuncturists</p> <p>13: ⑦Case Studies 1.A conversation between an acupuncturist and a patient(1)</p> <p>14: ⑦ 1.A conversation between an acupuncturist and a patient(2)</p> <p>15: 試験解説/ English Conversation Useful at a Stadium for Acupuncturists - Basic English Conversation with Athletes</p>							
<p>【テキスト】 『Basic English Conversation for Acupuncturists, Judo-Therapists and their Receptionists 鍼灸師、柔道整復師、受付係のための英会話入門 第2版』 山川より子 (技秀堂)</p>							
<p>【成績評価方法】 所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の筆記試験において評価を行う。</p>							
<p>【授業実施上の留意点】 特になし</p>							

## 講義要綱

【授業科目名】社会福祉概論	【分野】基礎	【学年】1	【学期】後期
【学科】専科	【講師名】楠 秀樹	【授業コマ数】15	【授業時間数】30
【単位数】2			
【一般目標:GIO】 社会福祉・社会保障制度に関する基礎知識を、社会的動向との関連において、理解する。			
【行動目標・到達目標:SBOs】 社会保障制度について、わかりやすく説明することができる。 社会福祉の各領域について、あはき師の活動と関連させて、表現することができる。			
【 授 業 計 画 】			
< 前 期 >	< 後 期 >		
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生活支援という考え方ー社会福祉の理論と歴史</li> <li>2. 生活を支える支援システムー社会福祉のしくみ</li> <li>3. 貧困を考える1ー生活保護と就労支援</li> <li>4. 貧困を考える2ー生活保護と就労支援</li> <li>5. 子供の育ちを考えるー子どもと社会福祉</li> <li>6. 家族の今・むかしー家族と社会福祉</li> <li>7. ジェンダーから見た社会福祉</li> <li>8. 自立を支えるー障害者と障害者自立支援法</li> <li>9. 高齢化社会を考えるー 少子化と介護保障システム</li> <li>10. 支え合う・助け合うー地域コミュニティと社会福祉</li> <li>11. ホスピスケアとはー看護と社会福祉</li> <li>12. 子どもの学習と発達を支えるー 教育現場での社会福祉の役割</li> <li>13. こころを支えるー心理臨床と社会福祉</li> <li>14. ともに暮らせる社会ー多文化共生と社会福祉</li> <li>15. 試験解説・まとめ</li> </ol>		
【テキスト】 岡田忠克編『よくわかる 社会福祉』ミネルヴァ書房 参考書は、講義時間内に、適宜紹介する。			
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の筆記試験において評価を行う。			
【授業実施上の留意点】 社会福祉の考え方を学ぶほか、社会統計の読みとり、文章表現、そうしたことに力を入れて、講義を行いたいと考えています。			

## 講義要綱

【授業科目名】	人体の構造と機能Ⅰ(解剖学Ⅰ)	【分野】	専門基礎	【学年】	1年	【学期】	前・後期		
【学科】	専科	【講師名】	前期:上田容子、後期:佐藤 巖		30	【授業時間数】	60	【単位数】	2
【一般目標:GIO】									
臨床で知っていなければならない人体の構造、そのうち運動器系について理解する。									
【行動目標・到達目標:SBO】									
人体構造の基本である骨およびその結合、関節運動を行う骨格筋について述べる事が出来る。									
【 授 業 計 画 】									
<前期>				<後期>					
1: 解剖学序論 1. 人体発生の概要(胚葉形成) 2. 皮膚の構造と発生学・組織学 3. 骨学概要(骨の成分、骨の役割) 骨学概要 1. 骨の役割(復習):骨の組織学を補足 2. 身体へのカルシウムの出入り i)体液 ii)血液 iii)身体へのカルシウムの出入り 3. カルシウム調節ホルモン 4. コラーゲンの型 5. 骨の形態 i)骨の凸凹 ii)骨の連結 3: 骨学総論(骨の形態 Textp160、骨の連結 p161、不動連結と可動連結) 4: 骨の可動連結(関節の基本構造) 骨学各論(骨格系の区分、脊椎) 5: 椎骨 脊柱の湾曲(椎骨の特徴、靭帯、胸郭) 6: 胸郭・胸腔・胸膜腔 上肢の骨格と靭帯 7: 骨格(前腕の骨と連結、手の骨と連結) 下肢(寛骨と骨盤、骨盤の性差、大腿骨、下腿骨、股関節と膝関節) 8: 下肢の骨(大腿骨、股関節、下腿骨、膝関節、足の骨、足関節) 頭蓋骨序論 9: 頭蓋骨(副鼻腔、鼓室、乳突蜂巣) 10: 頭蓋骨 側頭骨(鼓室、乳突蜂巣) 顔面形成 皮下に骨を触れる部位(股関節・膝関節・足関節) 11: 皮下に骨を触れる部位 (股関節・膝関節・足関節) 補足 筋学総論 12: 皮下に骨を触れる部位:上肢の途中 筋学総論 Text p163~168 13: 骨学総括 模擬試験 頭蓋骨と脳・脳神経 14: 骨・関節の総括 15: 試験問題の解説および総復習				1: 筋学総論 2: 筋学総論(深部感覚) 筋学各論(胸筋) 3: 胸筋・横隔膜・呼吸運動 腹筋 4: 腹筋 会陰筋 5: 背筋 呼吸運動に関する筋 6: 頸筋(頸部背筋、上肢帯筋との関係で) 上肢の筋 (上肢帯筋、浅胸筋、浅背筋との関係) 7: 上肢帯の筋(ローテーターカフ) 上腕の筋 前腕の筋 8: 上腕・前腕・手の筋 前腕の屈筋まで 9: 前腕の伸筋、手の筋 下肢の筋 10: 下肢の筋と支配神経 下肢帯・大腿の筋 11: 下肢の筋(大腿の筋) 12: 下肢の筋(下腿・足の筋) 13: 足の筋(外来筋 内在筋) 14: 頭頸部の筋 頭頸部の局所解剖学 15: 試験問題の解説および総復習					
【テキスト】									
「解剖学」河野邦雄ほか 医歯薬出版社									
【成績評価方法】									
所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の筆記試験において評価を行う。									
【授業実施上の留意点】									
特になし。									

## 講義要綱

【授業科目名】人体の構造と機能Ⅱ(解剖学Ⅱ)		【分野】	専門基礎	【学年】	1年	【学期】	前・後期
【学科】	専科	【講師名】	前期:上田容子、後期:佐藤 巖	【授業コマ数】	30	【授業時間数】	60
【一般目標:GIO】		臨床で知っていなければならない人体の構造、そのうち神経系と脈管系について理解する。					
【行動目標・到達目標:SBO】		人体の構成、神経系、循環器系の構造および機能について述べる事が出来る。					
【 授 業 計 画 】							
<前期>				<後期>			
1: 神経系の基礎(テキストに入る前に) 発生(中枢神経):中枢神経の発生をとりあつかう。以後、各項目の冒頭に「人体の構成」の必要な部分を入れる。今回は細胞の概念を述べる。 細胞:大きさ、核と細胞形質、細胞膜の物質透過性 2: 神経系(テキストp116~117) 神経系の構成:中枢神経と末梢神経 体性神経:脳神経と脊髄神経、脳の発育・発達、ニューロンとニューログリア、シナプス、髄膜、脳室・中心管とクモ膜下腔 3: 復習:髄膜と髄液 p128~129 脊髄 p118~120 4: 脊髄/脊髄の分化、交感神経幹との関係 脳幹と小脳/脳幹の分化、脳幹の役割 5: 脳幹(復習)/小脳、間脳(視床下部)、大脳「皮質(新皮質)、辺縁系(古皮質)、基底核、神経路」 6: 大脳/基底核、神経路、記憶、反射 7: 運動反射の中核、錐体路と錐体外路の中核、神経路の図説明、中枢神経の血管 8: 伝導路(復習) 末梢神経/概説、脳神経 9: 脳神経、脊髄神経概説 10: 脊髄神経 11: 頸神経/後枝、頸神経叢、腕神経叢 12: 神経叢(復習)、胸神経(復習)、腰仙骨神経叢 13: 腰仙骨神経叢/腰神経叢、仙骨神経叢 自律神経 14: 自律神経/頭仙系、胸腰系 15: 試験問題の解説および総復習				1: 脈管学総論/体液循環の仕組み 2: 心臓 3: 心臓、動脈 4: 大動脈とその枝 5: 大動脈とその枝 6: 頭頸部の動脈、上肢の動脈 7: 上肢の動脈 8: 下肢の動脈 9: 静脈 1. 上大静脈と下大静脈 2. 脳の静脈、脊髄・脊柱管の静脈 3. 門脈 4. 体壁の静脈(含奇リンパ系) 10: 皮下の静脈、皮下の静脈と深静脈の流注関係 リンパ系 11: リンパ系 12: 局所解剖/p226 体幹、p254 上肢、p284 下肢、p302 頭頸部・体表 13: 局所解剖/p227 体幹: 兎径部、胸壁と腹壁の脈管、会陰 14: 局所解剖学/筋は起始・付着、支配神経、脈管は筋との位置関係 15: 試験問題の解説および総復習			
【テキスト】 「解剖学」(医歯薬出版社)、河野邦雄ほか							
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の筆記試験を以って評価を行う。							
【授業実施上の留意点】 特になし。							

## 講義要綱

【授業科目名】人体の構造と機能Ⅴ(生理学Ⅰ)	【分野】専門基礎	【学年】1年	【学期】前・後期
【学科】専科	【講師名】小林 仁	【授業コマ数】30	【授業時間数】60 【単位数】2
【一般目標:GIO】 人体の80年以上に及ぶ生命活動を、その恒常性維持機能と共に説明でき、かつ次世代にどのように受け継がれるか、述べる事が出来る。また、次年度以降の恒常性維持機能の破綻である疾病に対する学習を控えて認知的領域および情意的領域におけるレディネスを獲得することが目標である。			
【行動目標・到達目標:SBOs】 生理学の定義を述べる事が出来る。 正常人体の恒常性に対する知識を述べる事が出来る。 人体の生命活動に対して医療倫理を踏まえた科学的な考察が出来る。 はり師・きゅう師国家試験に対応した知識を述べる事が出来る。			
【 授 業 計 画 】			
< 前 期 >		< 後 期 >	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 第1章 生理学の基礎 (生命機能の特徴・細胞の構造と機能①)</li> <li>2. 第1章 生理学の基礎 (生命機能の特徴・細胞の構造と機能②)</li> <li>3. 第1章 生理学の基礎 (物質代謝)</li> <li>4. 第1章 生理学の基礎 (体液の組成と働き・物質移動)</li> <li>5. 第2章 循環 (血液の組成と働き)</li> <li>6. 第14章 生体の防御機構 (生体の防御機構)</li> <li>7. 第14章 生体の防御機構 (免疫反応)</li> <li>8. 第2章 循環 (止血・線維素溶解)</li> <li>9. 第2章 循環 (血液型・心臓血管系)</li> <li>10. 第2章 循環 (心臓の構造と働き)</li> <li>11. 第2章 循環 (血液循環)</li> <li>12. 第2章 循環 (循環調節)</li> <li>13. 第2章 循環 (リンパ系)</li> <li>14. 第2章 循環 (循環器補足)</li> <li>15. 試験解説および総復習</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 第3章 呼吸 (呼吸器・換気とガス交換①)</li> <li>2. 第3章 呼吸 (呼吸器・換気とガス交換②)</li> <li>3. 第3章 呼吸 (呼吸運動とその調節)</li> <li>4. 第4章 消化と吸収 (消化と吸収・消化管の運動)</li> <li>5. 第4章 消化と吸収 (消化液・吸収)</li> <li>6. 第4章 消化と吸収 (肝臓の働き・接触の調節)</li> <li>7. 第5章 代謝 (食品と栄養素・代謝)</li> <li>8. 第5章 代謝 (各種栄養素の働きと代謝)</li> <li>9. 第6章 体温 (体温調節・体熱の産生と放散)</li> <li>10. 第6章 体温 (発汗とその調節・体温調節の障害)</li> <li>11. 第7章 排泄 (腎臓の働き・腎循環)</li> <li>12. 第7章 排泄 (尿生成)</li> <li>13. 第7章 排泄 (腎臓と体液の調節)</li> <li>14. 第7章 排泄 (蓄尿と排尿)</li> <li>15. 試験解説および総復習</li> </ol>	
【テキストなど】 テキスト:「生理学」第3版、東洋療法学校協会監修、医歯薬出版 参考書:授業内で適宜紹介。			
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の筆記試験において評価を行なう。			
【授業実施上の留意点】 授業は講義形式にて行う。教科書を通読、理解する。板書を中心として時に補足プリントを配布する。プリントは当日のみの配布になる。欠席者分の確保の必要があれば、クラス自治で対応する事。復習が大切です。時間をかけて行うように。			

## 講義要綱

【授業科目名】保健医療福祉	【分野】専門	【学年】1年	【学期】前期
【学科】専科	【講師名】仙田 昌子	【授業コマ数】23	【授業時間数】46
【一般目標:GIO】 医療の歴史、現代の医学、医療制度および医療従事者の倫理について学ぶ。 医療を担う一員として、広い視野に立って深く洞察できる人間性・人格を持つ。			
【行動目標・到達目標:SBO】 西洋と東洋の医学がどのように発展してきたのかなど、医学の変遷を医学史的に理解できる。 医学の現状と問題点を理解し、医学や医療がどのようにあるべきか自分の考えを持つことができる。 医療の倫理を学び、医療人として適切な態度、対応について考えることができる。 鍼灸業界を担ってきた先人達の鍼灸に対する思いを知り、鍼灸師としてのあるべき姿を考えることができる。			
【 授 業 計 画 】			
< 前 期 >			
1: ガイダンス	16: 現代医学と医療 ②		
2: 病とは	17: 現代医学と医療 ③		
3: 医学史 (西洋①)	18: 医療制度 ①		
4: 医学史 (西洋②)	19: 医療制度 ②		
5: 医学史 (西洋③)	20: 職業倫理 ①		
6: 医学史 (中国①)	21: 職業倫理 ②		
7: 医学史 (中国②)	22: 職業倫理 ③		
8: 医学史 (中国③)	23: 期末試験総評		
9: 医学史 (日本①)			
10: 医学史 (日本②)			
11: 医学史 (はりきゅうの歴史①)			
12: 医学史 (はりきゅうの歴史②)			
13: 医学史 (はりきゅうの歴史③)			
14: 医学史 (はりきゅうの歴史④)			
15: 現代医学と医療 ①			
【テキスト】 図書名:(社)東洋療法学校協会 『医療概論』 執筆者:中川米造 監修 出版社:医歯薬出版			
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の筆記試験によって評価を行う。			
【授業実施上の留意点】 適宜、資料配布。			

## 講義要綱

【授業科目名】基礎学Ⅰ(東洋医学概論)	【分野】専門	【学年】1年	【学期】前・後期
【学科】専科	【講師名】横田篤広	【授業コマ数】45	【授業時間数】90
【一般目標:GIO】 東洋医学独特の基礎概念、考え方、現象を理解する。			
【行動目標・到達目標:SBOs】 東洋医学の基礎概念を理解し、各章の大意を説明できる。			
【 授 業 計 画 】			
< 前 期 >		< 後 期 >	
1 東洋医学の特徴① 2 東洋医学の特徴② 3 東洋医学の特徴③ 4 東洋医学の特徴④ 5 東洋医学の特徴⑤ 6 東洋医学の特徴⑥ 7 臓腑論① 8 臓腑論② 9 臓腑論③ 10 臓腑④ 11 臓腑⑤ 12 気血津液論① 13 気血津液論② 14 気血津液論③ 15 気血津液論④ 16 経絡論① 17 経絡論② 18 経絡論③ 19 病因論① 20 病因論② 21 病因論③ 22 病因論④ 23 病因論⑤ 24 病因論⑥ 25 陰陽五行論① 26 陰陽五行論② 27 陰陽五行論③ 28 陰陽五行論④ 29 陰陽五行論⑤ 30 試験解説および総復習		1 気血病証① 2 気血病証② 3 気血病証③ 4 気血病証④ 5 臓腑病証① 6 臓腑病証② 7 臓腑病証③ 8 臓腑病証④ 9 臓腑病証⑤ 10 臓腑病証⑥ 11 臓腑病証⑦ 12 経絡病証① 13 経絡病証② 14 経絡病証③ 15 試験解説および総復習	
【テキスト】 テキスト:「新版 東洋医学概論」(東洋療法学校協会) 授業時の配布プリント 「中医鍼灸学総論」(東京医療福祉専門学校)			
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の筆記試験において評価を行う。			
【授業実施上の留意点】 本授業のねらいは臓腑、証、診断法、治療法の名前を覚えることではなく、基礎概念を理解することである。 基礎概念を把握するのは難しいので、納得するまで復習をし、再度授業に望んで欲しい。 理解するためにわからないことがあったら、質問をして欲しい。			

## 講義要綱

【授業科目名】基礎学Ⅱ(経絡経穴概論)	【分野】専門	【学年】1年	【学期】前・後期
【学科】専科	【講師名】横田篤広	【授業コマ数】30	【授業時間数】60
【単位数】2			
【一般目標:GIO】 臨床において用いられる経絡・経穴をWHOの基準に基づいて理解し、施術者間で意思疎通ができる。 経絡の流注、経穴の部位を理解し、適格な選穴と取穴ができる。			
【行動目標・到達目標:SBOs】 全ての経絡、経穴名を述べるができる。 経絡の意義と流注を説明できる。 経穴の部位と、取穴の際に用いられる解剖学的知識を説明できる。			
【 授 業 計 画 】			
< 前 期 >		< 後 期 >	
1 ガイダンス	1 手の太陽 小腸経①	2 手の太陽 小腸経②	2 手の太陽 小腸経②
2 経絡経穴の意義	3 足の太陽 膀胱経①	3 足の太陽 膀胱経②	3 足の太陽 膀胱経②
3 督脈①	4 足の太陽 膀胱経③	4 足の少陰 腎経①	4 足の少陰 腎経①
4 督脈②	5 足の少陰 腎経②	5 足の少陰 腎経②	5 足の少陰 腎経②
5 任脈①	6 手の少陽 三焦経①	6 手の少陽 三焦経②	6 手の少陽 三焦経②
6 手の太陰 肺経	7 足の少陽 胆経①	7 足の少陽 胆経②	7 足の少陽 胆経②
7 手の陽明 大腸経	8 足の少陽 胆経①	8 足の少陽 胆経①	8 足の少陽 胆経①
8 足の陽明 胃経①	9 足の厥陰 肝経	9 足の厥陰 肝経	9 足の厥陰 肝経
9 足の陽明 胃経②	10 奇経八脈・その他	10 奇経八脈・その他	10 奇経八脈・その他
10 足の陽明 胃経③	11 試験問題解説および総復習	11 試験問題解説および総復習	11 試験問題解説および総復習
11 足の太陰 脾経①			
12 足の太陰 脾経②			
13 手の少陰 心経			
14 総復習			
15 試験問題解説および総復習			
【テキスト】 テキスト:「経絡経穴概論 第2版」東洋療法学校協会編(医道の日本社) 授業時の配布プリント			
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の筆記試験において評価を行う。			
【授業実施上の留意点】 非常に多くの経穴を暗記するため、一遍に覚えずつこと身に付けて欲しい。 まとまったところで確認の小テストを行うので、積極的に取り組んで欲しい。			

## 講義要綱

【授業科目名】臨床学 I (臨床基礎理論 I)	【分野】専門	【学年】1年	【学期】後期
【学科】専科	【講師名】小高直幹	【授業コマ数】15	【授業時間数】30
【単位数】1			
【一般目標:GIO】 鍼灸臨床で遭遇しやすい症候・疾患について、適切な鑑別・評価・治療を行なうための基礎を身につける。			
【行動目標・到達目標:SBOs】 医療面接、バイタルサインについて学び、異常所見および意義を理解し、判断することができる。 鍼灸臨床における一連の流れを実践し、患者に対する適切な態度を示すことができる。			
【 授 業 計 画 】			
< 前 期 >		< 後 期 >	
		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. カルテについて</li> <li>3. 医療面接・コミュニケーション</li> <li>4. 医療面接の流れ</li> <li>5. 医療面接(問診項目)①</li> <li>6. 医療面接(問診項目)②</li> <li>7. 医療面接演習①</li> <li>8. 医療面接演習②</li> <li>9. 診察について</li> <li>10. バイタルサイン①</li> <li>11. バイタルサイン②</li> <li>12. バイタルサイン③</li> <li>13. 医療面接・診察演習①</li> <li>14. 医療面接・診察演習②</li> <li>15. 試験解説・まとめ</li> </ol>	
【テキスト】 テキスト:「鍼灸臨床 問診・診察ハンドブック」、「臨床医学総論」 参考書:授業で使用した参考書は授業内においてそのつど公表します。			
【成績評価方法】 授業内での課題、所定の出席時間を満たした者に対し行う筆記試験によって評価を行う。			
【授業実施上の留意点】 授業は講義または演習形式にて行う。 講義はテキストおよび配布プリントの通読を基本とし、必要な用語・知識について解説する。 演習において、患者を想定し適切な態度で臨むこと。			

## 講義要綱

【授業科目名】実習Ⅰ(鍼実技〔基礎〕)	【分野】専門	【学年】1年	【学期】前・後期
【学科】専科	【講師名】吉田 和大	【授業コマ数】60	【授業時間数】120
【単位数】4			
【一般目標:GIO】 銀鍼を用い刺鍼の技術と知識を習得し、施術を安全・確実に行える能力と態度を学ぶ。			
【行動目標・到達目標:SBOs】 人体の各部位に銀鍼を安全に刺入できる技術を身につける。各部位の刺鍼時の注意事項を知る。刺鍼における有害事象の予防、対処を実践できるようになる。			
【 授 業 計 画 】			
< 前 期 >		< 後 期 >	
1. 鍼の基礎知識 2. 片手挿管、練習器刺入練習 3. 刺鍼手順 4. 片手挿管練習① 5. 片手挿管練習② 6. 刺鍼練習器刺入練習・小テスト① 7. 刺鍼練習器刺入練習・小テスト② 8. 現行十七手技(単刺術、雀啄術、間歇術、屋漏術) 9. 振せん術、置鍼術、旋撚術、回旋術、乱鍼術、 10. 副刺激術、示指打法、随鍼術、内調術、細指術 11. 管散術、鍼尖転移法、刺鍼転向法) 12. 片手挿管小テスト 13. 足三里刺鍼(自分の脚)① 14. 足三里刺鍼(自分の脚)② 15. 【足】三里斜刺練習 16. 水平刺(横刺)練習 17. 足三里(ペア)弾入、切皮練習 18. 足三里(ペア)刺鍼練習 19. 実技試験手順に基づく足三里刺鍼練習 20. 足三里および腰部刺鍼練習 21. 実技試験予行演習 22. 実技試験① 23. 実技試験② 24. 実技試験③ 25. 総評・再試		1. 下腿前外後側解説および刺鍼練習 2. 下腿内側解説および刺鍼練習 3. 膝部解説および刺鍼練習 4. 足関節、足趾部解説および刺鍼練習 5. 前腕前後面解説および刺鍼練習 6. 前腕内外側解説および刺鍼練習 7. 手関節肘関節解説および刺鍼練習 8. 手指部解説および刺鍼練習 9. 肩部解説および刺鍼練習① 10. 肩部解説および刺鍼練習② 11. 頸部解説および刺鍼練習① 12. 頸部解説および刺鍼練習② 13. 上中背部解説および刺鍼練習① 14. 上中背部解説および刺鍼練習② 15. 腰部解説および刺鍼練習① 16. 腰部解説および刺鍼練習② 17. 殿部仙骨部解説および刺鍼練習① 18. 殿部仙骨部解説および刺鍼練習② 19. 前胸部解説および刺鍼練習① 20. 前胸部解説および刺鍼練習② 21. 上腹部解説および刺鍼練習① 22. 上腹部解説および刺鍼練習② 23. 中下腹部解説および刺鍼練習① 24. 中下腹部解説および刺鍼練習② 25. 頭部解説および刺鍼練習① 26. 頭部解説および刺鍼練習② 27. 顔面部解説および刺鍼練習① 28. 顔面部解説および刺鍼練習② 29. 総復習① 30. 総復習② 31. 総復習③ 32. 実技試験① 33. 実技試験② 34. 実技試験③ 35. 総評・再試	
【テキスト】 「はりきゅう実技<基礎編>」(教科書執筆小委員会編 医道の日本社)			
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の実技試験において評価を行う。			
【授業実施上の留意点】 人体への刺鍼は感染、組織の損傷などの危険を伴うものなので消毒手順、刺入角度、刺入深度に関して授業冒頭の注意事項は必ず聞き、遵守すること。各自道具は自己管理し、毎時欠かさず持参すること。道具の貸借は厳禁とする。実技室での実習は白衣着用のこと。			

## 講義要綱

【授業科目名】実習Ⅱ(鍼灸実技I経絡治療I)	【分野】専門	【学年】1年	【学期】後期
【学科】専科	【講師名】仙田 昌子	【授業コマ数】30	【授業時間数】60
【単位数】2			
【一般目標:GIO】 刺鍼技術の習得と要穴に適切な刺鍼が行えること(脈診切経による主証決定、虚実補瀉の選穴・刺鍼、体質に合わせた経絡治療の実施)を目標とする。			
【行動目標・到達目標:SBO】 脈診・切経を習得する。刺鍼は、姿勢、押手・刺手の基本技術を基礎として要穴・背部俞穴・腹部の刺鍼を習得する。 また、片手挿管を含みスムーズな刺鍼が行えるよう型として反復練習する。 陰陽五行説を踏まえた診察法と脈診による基本四証および寒熱証を導くことを目標とする。			
【 授 業 計 画 】			
< 後 期 >			
1: ガイダンス 診察法の概論(切診)・刺鍼の基礎(姿勢) 2: 脈診・切経(肺経) 刺鍼基礎(押手、要穴・背部刺鍼) 3: 脈診・切経(大腸経) 刺鍼基礎(刺手、要穴・背部刺鍼) 4: 脈診・切経(胃経) 刺鍼基礎(弾入、要穴・背部刺鍼) 5: 脈診・切経(脾経・腎経) 刺鍼基礎(要穴・背部刺鍼) 6: 脈診・切経(心経、心包経) 刺鍼基礎(要穴・背部刺鍼) 7: 脈診・切経(小腸経・三焦経) 刺鍼基礎(要穴・背部刺鍼) 8: 脈診・切経(胆経・肝経) 刺鍼基礎(要穴・背部刺鍼) 9: 脈診・切経(膀胱経) 刺鍼基礎(要穴・背部刺鍼) 10: 脈診・切経(まとめ) 刺鍼基礎(要穴・背部刺鍼) 11: 主証決定(脈診と六十九難) ① 証と対応する要穴の刺鍼 12: 主証決定(脈診と六十九難) ② 証と対応する要穴の刺鍼 13: 主証決定(脈診と六十九難) ③ 証と対応する要穴の刺鍼 14: 主証決定(脈診と六十九難) ④ 証と対応する要穴の刺鍼 15: 実技試験①と練習	16: 陰陽五行説による体質診察① 治未病・体質別治療(望・聞・問診と脈診) 17: 陰陽五行説による体質診察② 治未病・体質別治療(望・聞・問診と脈診) 18: 補瀉手技と治療実技(提按・開闔・迎隨) 19: 補瀉手技と治療実技(深淺・呼吸・捻転) 20: 補瀉手技と治療実技(弾爪・揺動) 〈本治法、本治法補助穴を20分以内〉 21: 単刺の治療 衛気・榮気(榮血)に対する補法、散鍼(補・瀉) 22: 置鍼の治療 鍼刺方向、鍼立、背部俞穴〈刺鍼40分以内〉 23: 置鍼の治療① 背部俞穴〈刺鍼30分以内〉 24: 置鍼の治療② 背部俞穴〈刺鍼30分以内〉 25: 体質別治療① 26: 体質別治療② 27: 実技試験②と練習 28: 病症に至るメカニズム① 肩こり 29: 病症に至るメカニズム② 肩こり 30: 実技試験総評		
【テキスト】 『日本鍼灸医学』(経絡治療・基礎編)経絡治療学会編纂。適宜、資料を配布する。			
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たし、各回の課題について評価を得た者に対し、実技試験によって評価を行う。 15回目と27回目の実技試験は、どちらか一方でも欠席および6割以下の場合には不合格となる。			
【授業実施上の留意点】 二人一組で、患者役と施術者役になって練習。順次、役割を交代する。 施術者役はカルテを記入し、その都度提出する。			

## 講義要綱

【授業科目名】実習Ⅲ(低周波鍼通電療法)	【分野】専門	【学年】1年	【学期】後期
【学科】専科	【講師名】小高直幹	【授業コマ数】15	【授業時間数】30
【単位数】1			
【一般目標:GIO】 鍼通電療法について理解し、目的となる組織に対して確実に実施出来る能力および態度を身に付ける。			
【行動目標・到達目標:SBOs】 鍼通電療法に関する知識を理解する。 目的となる筋等の組織を触診にて確認出来る。 目的となる筋等の組織に対して確実に刺鍼・通電を行うことが出来る。			
【 授 業 計 画 】			
< 前 期 >		< 後 期 >	
		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス、前脛骨筋</li> <li>2. 腓腹筋</li> <li>3. 大腿四頭筋</li> <li>4. 大腿筋膜張筋</li> <li>5. 脊柱起立筋</li> <li>6. 大殿筋</li> <li>7. 中殿筋</li> <li>8. 上腕三頭筋</li> <li>9. 尺側手根屈筋</li> <li>10. 復習・練習①</li> <li>11. 復習・練習②</li> <li>12. 実技試験①</li> <li>13. 実技試験②</li> <li>14. 実技試験③</li> <li>15. 総評・再試</li> </ol>	
【テキスト】 テキスト:「鍼通電療法テクニック」大島宣雄監修、山口真二郎著(医道の日本社) 参考書:授業で使用した参考書は授業内においてそのつど公表します。			
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たし、授業内で実施する課題をクリアした者に対し、実技試験において評価を行う。			
【授業実施上の留意点】 授業は実技室を使用し、白衣着用の事。 実習を行なう際には、患者を想定し、適切な態度で臨むこと。			

## 講義要綱

【授業科目名】実習Ⅳ(灸実技)	【分野】専門	【学年】1	【学期】前・後期
【学科】専科	【講師名】水元宏哉	【授業コマ数】30	【授業時間数】60【単位数】2
【一般目標:GIO】 灸施術に関する知識と基礎技術を習得し、臨床応用力を身につける。			
【行動目標・到達目標:SBOs】 灸施術に関する知識を学び、使い分けることができる。 灸の基本的な技術を身につける。 深谷灸の基本取穴、選穴の方法を身につけ、実践的に行うことができる。			
【授業計画】			
＜前期＞		＜後期＞	
1. お灸の基礎知識＜艾と線香について＞	2. 施灸練習①＜捻り動作、艾炷の堅さ・大きさ＞	1. 深谷灸法について＜灸熱緩和器、背部取穴＞	2. 呼吸器疾患＜感冒、喉＞
3. 施灸練習②＜点火、消火＞	4. 施灸練習③＜透熱灸＞	3. 呼吸器疾患＜咳、喘息、鼻炎、四華、患門＞	4. 消化器疾患＜胃炎・潰瘍＞
5. 施灸練習④＜透熱灸＞	6. 施灸練習⑤＜八分灸＞	5. 消化器疾患＜便秘・下痢＞	6. 循環器疾患＜動悸・息切れ＞
6. 施灸練習⑤＜八分灸＞	7. 施灸方法⑥＜八分灸＞	7. 循環器疾患＜高血圧・低血圧＞	8. 運動器疾患＜五十肩・肩こり＞
8. 施灸練習⑦＜自己施灸・八分灸・透熱灸＞	9. 施灸練習⑧＜自己施灸・八分灸・透熱灸＞	9. 運動器疾患＜腰痛・変形性膝関節症＞	10. 運動器疾患＜神経症・腱鞘炎＞
10. 施灸練習⑨＜人体施灸＞	11. 施灸練習⑩＜人体施灸＞	11. 運動器疾患＜変形性膝関節症＞	12. その他の灸＜温筒灸、隔物灸＞
12. 施灸練習＜総復習＞	13. 実技試験①	13. 実技試験①	
14. 実技試験②	15. 実技試験総評	14. 実技試験②	
15. 実技試験総評		15. 実技試験総評	
【テキスト】 「はりきゅう実技＜基礎編＞」(社)東洋療法学校協会編、教科書執筆小委員会著(医道の日本社) 「図説 深谷灸法」入江靖二編著(緑書房)			
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の実技試験において評価を行う。			
【授業実施上の留意点】 授業は実技室で行う。白衣の着用すること。 火気を扱うため、安全に十分配慮すること 原則として、施術練習台、艾、ライター、タオルを各自持参すること。			

## 講義要綱

【授業科目名】臨床総合Ⅰ(吉田流触診法)	【分野】専門	【学年】1年	【学期】前期
【学科】専科	【講師名】殿村康一	【授業コマ数】15	【授業時間数】30
【一般目標:GIO】 鍼灸治療を行う上で重要な触診について、吉田流触診法を用い経穴の正確な位置・筋骨格の形状・身体の状態を学ぶ。			
【行動目標・到達目標:SBOs】 吉田流触診法を学び鍼灸治療に生かすことが出来る。			
【 授 業 計 画 】			
< 前 期 >		< 後 期 >	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業ガイダンス</li> <li>2. 手技療法の特徴、吉田流あん摩術の特徴</li> <li>3. 触診に用いる手技(母指揉捏法)の解説と練習①</li> <li>4. 触診に用いる手技(母指揉捏法)の解説と練習②</li> <li>5. 脊柱周囲の触診①</li> <li>6. 脊柱周囲の触診②</li> <li>7. 肩関節周囲の触診①</li> <li>8. 肩関節周囲の触診②</li> <li>9. 頸部周囲の触診</li> <li>10. 臀部から下肢の触診①</li> <li>11. 臀部から下肢の触診②</li> <li>12. 膝関節周囲の触診</li> <li>13. 総復習</li> <li>14. 実技試験と練習</li> <li>15. 実技試験総評と練習</li> </ol>			
【テキスト】 ・「吉田流あん摩術」医道の日本社 ・プリント			
【成績評価方法】 所定の出席時間数を満たした者に対し、学期末の実技試験において評価を行う。			
【授業実施上の留意点】 授業は白衣を着用し手ぬぐいを使用する。 実技の説明時には必ずメモをとり、復習する時に間違えないように正確で見やすいものにする。 毎日必ず1時間は練習を心がけ手技の修得に努める。			